

PMR 資格試験への挑戦 3

実務定着の過程で明らかになった、PMR 試験が問う“実践力”

岩瀬 圭

■ 受験動機

1. プロジェクトマネジメントに向き合う転機と限界

これまで約 16 年間、システム開発およびネットワークインフラの分野で業務に携わってきました。約 4 年前、担当プロジェクトでの失敗を契機に自身の進め方を振り返り、感覚や経験に依存した判断を見直す必要性を感じるようになりました。その後、PMBOK®や PRINCE2®に基づくプロジェクトマネジメントを実践し、プロジェクト単体の QCD は安定しましたが、ゼロトラスト化に伴うプロダクトの複合化や導入後の活用定着、企画構想段階からの支援依頼、新組織立ち上げなど、複雑性の高い状況に直面する中で、プロジェクトの視点では、価値実現に限界を感じる場面が次第に増えてきました。

2. プログラムマネジメントと PMR への挑戦

こうした課題意識の中でプログラムマネジメントを知り、全体として価値を実現するためのマネジメントが必要だと考えるようになりました。PMP®取得後、P2M に基づく体系的な理解を深めるために PMS プログラム試験を受験し、合格しました。現在は新組織立ち上げの局面で、プログラムを主導する立場にあり、知識にとどまらない実践力を確認・強化したいと考え、PMR への挑戦を決意しました。

■ 受験の感想

1. 事前準備と受験への姿勢

PMR 資格試験は詳細な内容が公開されていないため、事前準備が重要だと考え、試験紹介セミナーと養成研修の双方に参加し、試験の全体像を把握したうえで受験に臨みました。会社の支援制度や学習環境にも恵まれ、費用面の不安なく準備に集中できたことから、成果をもって組織に貢献する意思を固めました。

2. PMR が求める「実践力」の理解

試験紹介セミナーを通じて、PMS は知識の修得、PMR は実践力の評価であること、またタクソノミーが実践の基準であり、知識を前提に状況に応じた思考・判断と適切なアウトプットが求められる試験であることを理解しました。養成研修での過去問を題材とした演習を通じて試験の進め方や論点整理を体験できたことで、本番ではアウトプットの精度と配分に集中することができました。

3. 試験対策

試験対策は、日常業務でミッションプロファイリングを中核としたスキームモデルの実践を意識するとともに、コミュニティ活動や PMAJ の動画アーカイブを活用し、異業種事例からプログラムマネジメントの引き出しを広げるよう心掛けました。

4. 試験・面談を通じた実務的な学び

一次・二次を通じて、PMR は限られた時間・文字数・前提条件のもとで、何を優先し、どこまで判断を深めるかが問われていると感じました。二次のモジュール試験では、日常 PM として行っている会議のファシリテーションや意思決定の整理、意見を統合して方向性を示す力が、そのまま活かされることを実感しました。グループ討議では多様な視点に触れ、面談では自身のアウトプットを振り返り、実践を構造的に捉え直す機会となりました。

■ PMR としての展望

1. 実践してきた取り組みの確認

試験を通じて、実務で取り組んできたプログラムマネジメントが間違っていなかったことを再認識できました。直近 1 年間の取り組みを振り返っても、明確な成果が現れており、その結果を客観的な視点で見直す機会を得られたことは、PMR 受験の大きな意義でした。

2. 組織への定着と実務を通じた還元

資格の取得で満足せず P2M の理解を深め、組織へのプログラムマネジメントの浸透に注力していきたいと考えています。「あるべき姿」を指針としながら、現状を踏まえてプログラムを描いていく考え方が、組織の共通認識として醸成されていくことが重要だと感じています。そのために、日々の実務を通じて得てきた知見をもとに、理論や手法を押し付けるのではなく、実務の延長線上にプログラムマネジメントがある環境を整えながら、後進の育成と持続的な価値創出を支えていくことが、PMR として私が果たしていきたい役割です。



【プロフィール】 岩瀬 圭(いわせ けい)

アルティウスリンク株式会社 CX²-IT 事業領域 マネージャー

※CX²: Customer Experience × Corporate Transformation

不動産 DX 領域の SaaS 企業にて、システム開発領域で約 8 年、企画構想から導入コンサル・開発・運用まで一通り経験。

2017 年より、現職では BPO 文脈でネットワークインテグレーションを担うプロジェクトマネージャーとして、クラウド・セキュリティを含む IT 基盤の顧客支援に約 7 年半従事。

直近 1 年は新組織立ち上げに参画し、プログラムマネージャーとしてプログラム統合(スキームモデルの再定義・統合)を完了ステータスまで推進しつつ、参画時点の状況を踏まえ、プログラム戦略マネジメント(システムモデル)を並行して実施。

PMR、PMP[®]、PRINCE2[®] Practitioner ほか、PM/インフラ両面の実務者向け資格を保有。